

NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.

40

September, 2023

伊都標本資料研究・教育ブランチが竣工しました

収蔵拠点としての機能に加え、研究・教育にかかる共同利用施設としての機能や展示機能を有する「伊都標本資料研究・教育ブランチ」が、伊都キャンパス・イーストゾーンに竣工しました。本施設と箱崎サテライトの旧工学部本館とをあわせて、学外に分散して収蔵されていた博物館資料が九州大学に集約化されることになります。

総合研究博物館第9代館長 宮本 一夫





新施設竣工

伊都標本資料研究・教育ブランチ

伊藤 泰弘 開示研究部門・准教授

本年4月、伊都キャンパス・イーストゾーン東ゲート前に、総合研究博物館の新しい収蔵庫「伊都標本資料研究・教育ブランチ」(以下、伊都ブランチ)が竣工しました。この新収蔵庫は、軽量鉄骨造、建築面積は約2,000㎡、延床面積は約2,175㎡、天井の高さは約6mです。当館が所蔵する九州大学の貴重な標本資料を保管し、研究・教育に役立てる目的で建設されました。建物内部は真ん中で玄関入口側と奥側に大きく2つのエリアに仕切られています。玄関入口側は、整理・クリーニング作業や実習、収蔵展示が中心のエリアとなります。約180㎡の作業・演習室もあり、博物館に収蔵された標本資料を使って調査研究を行う学内共同利用施設として、また学生の博物館実習施設として使える機能を備えています。奥側のエリアは、ラックや標本棚などの収納・保管機能を備え、標本資料の保存を中心としたバックヤードゾーンとなります。

この伊都ブランチが完成したことにより、これまで、総合研究博物館のある箱崎サテライト・旧工学部本館建物内に収容しきれず、外部の施設を借りて保管してきた標本資

料が収蔵できるようになりました。分散していた標本資料の大半は今年度中に伊都ブランチに移す計画です。標本資料が集約されることで、調査研究も効果的に進められるようになり、学芸員実習など博物館での学生教育にも利用できるようになります。また、伊都の収蔵機能が強化されることで、今後予定されている箱崎・旧工学部本館建物の改修による博物館リニューアルの際、展示に使えるスペースが広がり、箱崎の展示機能の強化につながります。さらに、伊都ブランチは、その南北に古墳があり、これを生かした学生教育や地域交流の場としても活用できると思います。

伊都ブランチは、総合研究博物館の活動をさらに充実させるための重要な拠点です。できるだけ早く整備したいと考えていますが、残念ながら現在、その資金が不足している状況です。皆さまからのご寄附をお願いしております。ご支援をもとに、伊都ブランチの整備を進めさせていただければ幸いです。

① 建物外観 / ② 建物内観 / ③ 銘板

COLUMN①



令和5年度九州大学総合研究博物館公開講演会開催！ 「フィールドの学 — 古生物学と考古学 —」

2024年2月17日(土)に、令和5年度九州大学総合研究博物館公開講演会「フィールドの学 — 古生物学と考古学 —」を開催いたします。当館の宮本一夫館長と前田晴良副館長が、令和5年度をもってご退職されるということで、本講演会では両

先生のご専門である考古学・古生物学に共通する「フィールド」に焦点を当て、これまでの先生方の調査・研究成果や、考古学・古生物学の未来についてご講演いただきます。

また、先日伊都キャンパスに竣工した「伊都標本資料研究・

福永 将大 開示研究部門・助教

教育ブランチ」の施設見学ツアーも合わせて開催いたします。

会場は九州大学伊都キャンパスイーストゾーン大講義室Ⅱで、12時半受付開始です。詳細は当館ホームページをご確認ください。皆様のご来場をお待ちしております！

博物館特別公開

福岡ミュージアムウィーク 2023

伊藤 泰弘 開示研究部門・准教授



福岡ミュージアムウィーク 2023 (5月13日～21日)に参加しました。期間中は土日限定で、壁画のある4階会議室、旧工学部列品室、動物骨格標本開示室、高壮吉鉱物標本開示室をはじめ、植物・昆虫・人骨・化石・工学系すべての開示室を公開しました。開示室の公開は、コロナ前の2019年11月以来、3年半ぶりとなりました。あわせて、常設展示室の企画展コーナーでは「100年前の標本一時を超えた昆虫の輝き」を開催。さらに、前田晴良教授による「プロフェッサー前田の化石講座」を開講。この講座は、当初、1日限定の予定でしたが、あまりの人気に急遽もう1日追加して2日行いました。それぞれの開示室では、共創、文、医、農、理と様々な学部・

学府の学生・院生や、鉱物ボランティアの皆さんに手伝ってもらいました。来館者の方々に積極的に話しかけて解説するなど盛り立ててくれました。おかげで見学後の感想を尋ねたアンケートでも多くの好評なご意見を頂戴いたしました。

今年は、新型コロナ5類引き下げ直後だったこともあり、関連企画の事前宣伝が控えめになっていました。また、総合研究博物館のある箱崎サテライトが整備工事中のため、正門を閉鎖しているなど、アクセスに大変不便な状況でした。そのような状況だったにもかかわらず、大変多くの方々にお越しいただき、コロナ前と同様に盛況なミュージアムウィークとなりました。

開催報告

ギャラリートーク ― 発掘担当者とみる元寇防塁展

吉田 明世 テクニカルスタッフ



元寇防塁展』を開催しました。

箱崎キャンパス跡地の発掘調査に携わり、元寇防塁の調査も担当した福永将大先生に展示の解説をしていただき、参加者は元寇防塁研究の歴史や調査時のエピソードに耳を傾けました。最初は緊張感のある雰囲気でしたが、終盤には活発な質問もあり、解説パネルに掲載しきれなかった内容に話が盛り上がりました。ギャラリートーク終了後もほとんどの方が会場に残り、鑑賞後の余韻を楽しみました。

福岡ミュージアムウィーク 2023の期間中、フジギャラリーでは春季企画展示「元寇防塁研究と九州大学」を行っており、この展示に合わせて『ギャラリートーク 発掘担当者とみる

1日に2回開催し、2日で30人の参加がありました。展示物をいろんな角度で見入る参加者の姿も見られ、終了後のアンケートでは「元寇防塁研究の最新成果がよくわかった」「展示を見るだけでは知りえないお話を聴くことができ、大変興味深かった」などのお声をいただきました。

今回のギャラリートークでは、初めてフジギャラリーにお越しいただいた方も多く、九州大学で行われている研究成果について紹介するいい機会となりました。フジギャラリーでは今後もさまざまなイベントを行なっていきます。



① ギャラリートークの様子 / ② 蒙古兜を下から観賞する様子



2023年度公開展示

ふくおか大昆虫展 in ももち 世界の昆虫と九州大学の研究 を開催して

丸山 宗利 一次資料研究部門・准教授

日時 ● 2023年7月14日(金)～8月27日(日) 10:00～18:00 / 会場 ● TNC 放送会館 1階ホールエントランス /
実行委員 ● 荒木啓充、小川浩太、日野真人、丸山宗利、屋宜禎央(以上、九州大学)、柿本一幸、四丸愛(以上、TNC プロジェクト)



当館では毎年、公開展示として比較的規模の大きな展示会を開催しています。年ごとに、博物館専任教員で分担し、異なる分野で展示を行っています。今年も、2017年に天神地下街や志摩歴史資料館で行った「新種発見! 昆虫冒険旅行」以来、久しぶりに昆虫の展示を行いました。

現在、九州大学では「昆虫科学・新産業創生研究センター」という組織を立ち上げ、昆虫を研究材料とした学際的な事業を行っています。その背景に、九州大学が日本で昆虫研究がもっともさかんであることがあります(たとえば、昆虫を研究する教員や学生数は、日本の大学で群を抜いていちばんで、昆虫標本の収蔵数も日本最大です)。これを昆虫展の絶好の機会とし、同センターの若手教員を中心に実行委員会を立ち上げました。

つぎに会場をどこにするかという問題がありました。当館の展示を長年支えてくださっている有限会社ケイ・ネットワークの松原憲治さんに相談した結果、TNC会館の1階ホールに展示会場を設営して行くのが良いのではないかということになり、同会館を拠点としてイベント事業を展開している株式会社TNCプロジェクトと組んで今回の展示を行うことになりました。



展示内容は九州大学の研究紹介と、世界の大型美麗昆虫です。学内の多くの先生に研究紹介の原稿と写真

をお願いし、パネルを作成し、できるだけ研究資料とともに展示しました。また、壁一面に世界の大型美麗昆虫の標本を展示し、昆虫が好きな子供たちに喜んでもらえるよう工夫しました。実際、幼稚園から低学年の子供たちが昆虫標本に夢中になり、高学年以上の児童や、付き添いの保護者、中高生や大人の来場者の方々は、パネルの内容にも興味を持たれ、いずれもゆっくりと見ていただくことができました。その他、カイコ、世界のゴキ



ブリ、ゲンゴロウなどの生体、海外調査で撮影された写真のスライドショーなども展示し、ご好評いただきました。また、開催期間中、カイコの繭を用いたクラフトや、ハサミムシの折り紙、昆虫標本教室などのイベントも実施しました。

今回は15,373名の方々にご来場いただきました。今夏はコロナ禍以降の規制緩和により、多数の競合イベントがあったことと、異常ともいえる酷暑により、全国的に博物館の展示来場者数が伸び悩んだと聞きますが、そのなかで本展示に足を運んでくださった方には深く感謝申し上げます。最後になりますが、本展示の開催にあたって尽力いただいた実行委員の皆様や展示物にご協力くださった皆様には厚く御礼申し上げます。



「帝国日本と森林—近代東アジアにおける環境保護と資源開発—」箱崎・伊都会場開催報告

三島 美佐子 一次資料研究部門・教授

箱崎会場 ● 2023年3月1日(水)～4月28日(金)、伊都会場 ● 5月8日(月)～6月14日(水)

現代の「持続可能な開発(SDGs)」に見られるような環境保全と開発の両立をはかる考え方は、実は18～19世紀から始まっています。特に地理的・歴史的な文脈として「帝国と環境」に関わる背景のあることが、近年の国内外における研究により明らかにされつつあります。そのような先行研究をふまえ、戦前日本の旧植民地・旧支配地域を含む森林・林業における総合的な保護と開発のありようをデータをもとに明らかにしようとした研究の成果が、2023年2月に出版された書籍『帝国日本と森林』です。本書の研究チームに



参画している私も、小さなコラムを3つほど担当させていただきました。せっかくなので、アウトリーチとして展示してみませんかと提案したところ、最終的に、チームメンバーが所属するほとんど全ての大学にも大学博物館があるため各大

学博物館を巡回にしよう、ということになりました。

『帝国日本と森林』はやや硬い専門書であるため、展示では、各章のエッセンスをパネルで概説することにしました。問題は実物資料です。本書の元になった研究で用いられた原資料は文献や書籍などのため、もし直接的な資料展示であれば、紙資料ばかりになってしまいます。そこで、当館と農学部の植物標本庫から、各章の地域や話題に関連するものがないか探したところ、各地の木材標本、教育掛地図、ガラススライドなどが見つかり、実物展示とすることができました。

箱崎サテライト旧工学部本館3階常設展示室ミニ展示



コーナーから始まり、第二弾は伊都キャンパス中央図書館エントランスで実施しました。このエントランスは、展示照明のための配電レールが整っている、週末を含む長時間開館して

おり常時受付に人がいる、多くの学生・教員が往来するなど、とてもよい開示環境です。中央図書館には共催として全面的なご協力をいただき、会期中、森林ジャーナリスト・田中淳夫氏とのトークセッションや、図書館職員のための展示リテラシーミニ講座なども企画いただきました。

今後はいよいよ県外への巡回です。10月から東京農工大学科学博物館(小金井市)、来年1月からは帝京大学博物館(八王子市)、4月からは金沢大学資料館(金沢市)にて開催します。帝京大学や金沢大学では、本書で図として引用されている昭和戦前期の植樹のポスターなど、新規資料も展示する予定です。



- ① 展示を観てくれた留学生と一緒に設営完了の記念撮影
- ② 博物館実習生達が設営・撤収を担当
- ③ 本展示アイキャッチ、手描の掛図「植物区系分布地図」

COLUMN②



「東区鉄道史—福岡市内線・地下鉄とJR九州の歴史—」

九州大学鉄道研究同好会

2023年9月19日～10月20日まで、九州大学総合研究博物館3F常設展示室ミニ展示コーナーにて、東区鉄道史—福岡市内線・地下鉄とJR九州の歴史—を開催いたします。当企画では、九州大学鉄道研究同好会が所蔵するJR鹿児島

本線箱崎—吉塚間高架化工事中の写真展示、さらには福岡市地下鉄1号線および2号線の延伸開業パンフレットの展示、宮地岳線香椎駅周辺連続立体交差事業にまつわる写真展示等を実施いたします。また、弊会名誉顧問、および「西

鉄電車 おもいでアルバム」著者である大田治彦 九州大学名誉教授にご協力いただき、西鉄福岡市内線の写真展示も予定しております。

皆様のご来場をお待ちしております！



フジイギャラリー春季企画展

元寇防塁研究と九州大学

福永 将大 開示研究部門・助教



2023年4月3日～6月30日に、九州大学伊都キャンパス・フジイギャラリーにて、2023年度春季企画展示「元寇防塁展と九州大学」を開催しました。元寇防塁やモンゴル襲来をテーマにした展示は、これまでも様々な機関で開催されてきましたが、本展示の特色は、九州大学が関わってきた元寇防塁の調査研究に焦点を当てた点にあります。

福岡医科大学(現・九州大学医学部)病理学教授・中山平次郎が各地の防塁を踏査する中で採集した石材や、九州大学文学部教授・鏡山猛を調査団長として今津地区を発掘調査した際の写真、そして、九州大学埋蔵文化財調査室による箱崎キャンパス跡地での元寇防塁の発掘調査成果などの展示を通して、特に考古学分野における元寇防塁研究の歴史と最新の成果を紹介しました。

また、九州大学



附属図書館所蔵の『蒙古襲来絵詞』も展示しました。当該史料は、近世後期に肥後の阿蘇神社にあった模本をさらに写したもので、比較的早い時期の模本といえます。このため、原本では破損して読めない詞を判読できる部分もあり、これまでモンゴル襲来に関する研究の進展に多大な貢献を果たしてきた史料です。

さらに、最先端技術を用いた元寇防塁の高精度

3D測量調査成果も、本展示の目玉の一つでした。九州大学大学院人間環境学研究院の堀賀貴先生・小川拓郎先生らのご協力のもと、先生方が測量した元寇防塁の3Dデータと、「Unreal Engine」というソフトウェアを組み合わせることで、箱崎キャンパス跡地の元寇防塁の石積みの大きさや高さなどを、皆様にも疑似的に体験いただけるようにしました。

本学の教職員・学生はもちろんのこと、学外の方にも多くご来館いただき、また、展示アンケートでも、「展示のおかげで元寇防塁について改めて考えさせられた」、「九大の研究成果がみれて良かった」などの感想を多くいただいております。令和9年度にリニューアルオープンを目指している、九州大学箱崎サテライトの総合研究博物館においても、本展示で扱った元寇防塁に関する九州大学の調査研究成果について展示・紹介するコーナーを設ける予定です。是非こちらもご期待ください。



① フジイギャラリー全景 / ② 展示風景1 / ③ 展示風景2

COLUMN③



4-dimensional dragon

フジイギャラリー G1 特別展示 現代数学と紙のアート

米元 史織 / 吉田 明世

期間 ● 8月5日～12月6日 / 主催 ● 九州大学総合研究博物館 / 後援 ● 同大理学部、大学院数理学府、マス・フォア・インダストリ研究所

フジイギャラリー G1 では、数学の魅力を繊細な切り絵で表現するアーティスト、岡本健太郎の個展を開催しています。現代数学の抽象的な世界を鮮やかな色彩と精緻なデザインで描き出し、切

り絵という絵画手法で一枚一枚手作業により紙を切り抜いて作成されます。展示される作品は、フラクタル図形、位相幾何学(トポロジー)の概念など、さまざまな要素を取り入れ、数学の多様な

世界を味わうことができます。

11月9日には切り絵体験イベントも企画しています。美しい什器とのコラボレーションもフジイギャラリーならではです。ぜひご来場ください。



フジギャラリー夏季企画展

九州大学と旧工学部本館

米元 史織 開示研究部門・助教

日時 ● 2023年7月24日(月)～11月10日(金) / 主催 ● 九州大学総合研究博物館

共催 ● 同大学文書館、大学院工学研究院、大学院人間環境学研究院都市・建築学部門建築史・都市史研究室、附属図書館付設教材開発センター、埋蔵文化財調査室

2023年3月に旧工学部本館を含めた旧九州帝国大学(現国立大学法人九州大学箱崎サテライト)近代建造物群が九州大学初の登録有形文化財に指定されました。

箱崎キャンパスは、箱崎町字地藏松原に1911(明治44)年に工科大学が整備され、国内4番目の帝国大学として九州帝国大学が創立して以降、伊都への移転が完了する2018年までの約110年間九州大学の中心でした。その中で、正門に近い立地にあり、箱崎地区における九州大学の代表的建築物が旧工学部本館です。2023年3月に旧工学部本館を含めた旧九州帝国大学(現国立大学法人九州大学箱崎サテライト)近代建造物群が登録有形文化財に指定されました。



九州大学は伊都へ移転しましたが、旧工学部本館には大学文書館と総合研究博物館が、第三庁舎には埋蔵文化財調査室が現在も活動

を続けています。

今回の展示では、九州大学の最初の110年の象徴として保全されることになった旧工学部本館の歴史と工学部初期に収集された貴重なクラント標本や工学系資料・模型群、さらに現在も箱崎サテライトで活動を続けている総合研究博物館と文書館、そして伊都へ拠点を移した工学部の現在を紹介しています。



展示空間では博物館の各標本をARで表示しスマホで写真撮影・360°VR動画で博物館内の体験・工学研究院の先生方の最先端の研究を紹介する資料を多数展示など、様々な試みを行っています。11月まで開催しておりますので是非足をお運びください。

① 工学部本館(昭和5年竣工 文書館所蔵) / ② 倉田課長洋行首途祈願記念(「軌跡と布石」1991年) 文書館所蔵 / ③ 展示風景

COLUMN④

フジギャラリー 展示開催予告

モンゴル高原の牧畜社会の始まりを探る —九州大学海外発掘調査隊の記録—

期間 ● 12月4日～3月25日 / 主催 ● 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究所、総合研究博物館

米元 史織 開示研究部門・助教 / 松本 圭太 人文科学研究院・助教



東ヨーロッパからシベリア、中央アジアをへて、モンゴル高原へと続くユーラシア大草原。これらの地域では、古来、牧畜民あるいは騎馬遊牧民が活躍してきました。本展示では、こうした古代草原の民の動向を詳細に捉えるべく進められてき

た、九州大学における共同調査成果を紹介いたします。ユーラシア草原地帯に広く分布する、板石を用いた墓制、類似した形の青銅器は、どのようにして広がったのでしょうか? また、これらを生み出したのは、どのような人々だったのでしょうか?

九州大学の考古研究者宮本一夫教授の研究グループによる15年に及ぶ最先端の考古学・人類学の学融合研究が明らかにする、人と文化の壮大な流れを是非ご覧ください。皆様のご来場をお待ちしております!



博物館の活動記録

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

●「元寇防塁研究と九州大学」

期間○令和5年4月3日(月)～6月30日(金)
場所○九州大学伊都キャンパスフジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
共催○九州大学附属図書館、九州大学大学院人間環境学
研究院都市・建築学部門建築史・都市史研究室、
九州大学埋蔵文化財調査室、九州大学考古学研究室
後援○福岡市、九州朝日放送

●科研成果書籍出版記念展示 第二期 伊都会場

「帝国日本と森林—近代東アジアにおける環境保護と資源開発」
期間○令和5年5月8日(月)～6月14日(水)
場所○九州大学伊都キャンパス・中央図書館3階エントランスエリア
主催○帝国日本と森林出版記念展示実行委員会
共催○九州大学総合研究博物館
協力○九州大学附属図書館、九州大学文書館

●「100年前の標本—時を超えた昆虫の輝き—」

期間○令和5年5月11日(木)～8月31日(木)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館、農学研究院、
比較社会文化研究院、TNC プロジェクト

●「九州大学と旧工学部本館」

期間○令和5年7月24日(月)～11月10日(金)
場所○九州大学伊都キャンパスフジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
共催○九州大学文書館、九州大学大学院工学研究院、九州大学
大学院人間環境学研究院都市・建築学部門建築史・
都市史研究室、九州大学附属図書館付設教材開発
センター、九州大学埋蔵文化財調査室

●「現代数学と紙のアート」

期間○令和5年8月5日(土)～12月6日(水)
場所○九州大学伊都キャンパスフジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
後援○九州大学理学部、九州大学大学院数理学府、
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所

公開展示

●九州大学総合研究博物館 第23回公開展示

「ふくおか大昆虫展 in ももち 世界の昆虫と九州大学の研究」
期間○令和5年7月14日(金)～8月27日(日)
場所○TNC放送会館 1階ホールエントランス イベントス
ペース
主催○九州大学総合研究博物館、九州大学昆虫科学・
新産業創生研究センター、TNC プロジェクト
協力○TNC放送会館、サン・グリーン、竜洋昆虫自然観察
公園、大塚 昌平

サテライト展示

●福岡県のクワガタ

期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二文館

●福岡県のクワガタ

期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館

●福岡県の蝶

期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

学外連携事業

●「福岡ミュージアムウィーク 2023」

期間○令和5年5月13日(土)～5月21日(日)
場所○参加各施設
主催○福岡ミュージアム連絡会議(福岡市博物館、福岡市美術館、
福岡アジア美術館、福岡県立美術館、福岡市埋蔵文化財
センター、「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、
王貞治ベースボールミュージアム、九州大学総合研究博物館、
九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、能古博物館、
福岡市動植物園、福岡市文学館、博多の食と文化の博物館
ハクハク、高取焼本家味楽美術館、福岡女子大学美術館、
福岡市科学館、チームラボフォレスト 福岡—SBI 証券)
協力○(株)博多座、(公財)福岡市文化芸術振興財団、よかたい
図書館共同事業体(福岡市総合図書館指定管理者)

協力

●窓口シャツプロデュース「幣's BAR」

日程○令和5年7月29日(土)、7月30日(日)
場所○宮崎宮参道出展ブース
主催○窓口シャツ直営店オリジナルファッション幣
協力○九州大学総合研究博物館、天井棧敷、Barkitchen、
Ratafia

講座・トークイベント等

●「歴史的工作機械の保存・活用シンポジウム

—九州大学におけるこれからの百年に向けて—
日時○令和5年4月14日(金) 14時～16時30分
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館1階大講義室
主催○歴史的工作機械の保存・活用シンポジウム実行委員会
共催○九州大学総合研究博物館

●地質の日記念イベント「プロフェッサー前田の化石講座」

日程○令和5年5月13日(土)、5月20日(土)
場所○旧工学部本館2、3階 化石閲覧展示室ほか
主催○九州大学総合研究博物館

●元寇防塁研究と九州大学

ギャラリートーク「発掘担当者とする元寇防塁展」
日程○令和5年5月13日(土)、5月20日(土)
場所○九州大学伊都キャンパスフジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館

●科研成果巡回展「第二期」伊都会場「帝国日本と森林」展運動

「森林ジャーナリスト・田中淳夫氏ショート・トーク・セッション」
日時○令和5年5月18日(木) 13時10分～14時
場所○九州大学中央図書館 4階 Sky Cute.Commons
ゲスト○田中 淳夫(森林ジャーナリスト)
ガイド○三島 美佐子(九州大学総合研究博物館・教授)

テレビ・ラジオ出演

●NHK Eテレ「ザ・バックヤード～知の迷宮の裏側探訪～」

令和5年4月26日(水)

●NHKラジオ「子ども科学電話相談」

令和5年5月28日、6月23日、8月5日
丸山 宗利(准教授)

●LOVE FM「月下虫音」

令和5年4月4日、8月1日
丸山 宗利(准教授)

●エフエム福岡「モーニングジャム」

令和5年7月26日
丸山 宗利(准教授)

運営委員会

●運営委員会

・令和5年5月11日(書面)
・令和5年6月20日(書面)
・令和5年7月3日(WEB)

人事往来

●令和5年4月1日付けで、中村 説男が一般職員として

着任しました。

●令和5年4月1日付けで、盆子原 勇が一般職員として

着任しました。

●令和5年3月31日付けで、事務補佐員の石塚 弥生が

退職しました。

●令和5年3月31日付けで、事務補佐員の香月 千佳が

退職しました。

●令和5年4月1日付けで、辰田 みどりが事務補佐員

として着任しました。

●令和5年4月1日付けで、吉原 加代子が事務補佐員

として着任しました。

総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下2つのご寄付を受け付けています。

『博物館活動充実基金』

◎当館は、本学の教育・研究・医療の歴史の中で収集された約155万点にのぼる貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しています。皆様からのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、今後の博物館の整備等に必要なる諸事業に活用いたします。

▼詳しくは総合研究博物館 HP をご参照下さい

【九州大学総合博物館：博物館活動充実基金(kyushu-u.ac.jp)】
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>



用途特定寄附金

『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』

◎当館は、九大百年の歴史的エリアである箱崎サテライトにおいて令和9年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育プラントを令和5年に設置します。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。

▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓生・基金課基金係：総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cid=1558&_search=&mode=1&page=1

